

人工衛星をリリースへ

三井住友F&L アストロスケールと

三井住友ファイナンス & リリース (F&L) は、宇宙スタートアップのアストロスケール (東京・墨田) と協業し、人工衛星をリリースできるようにする。実現すれば人工衛星の開発や保有を前提とせず、借りた衛星を使って學術機関が宇宙の研究をしたり、企業が地球の観測衛星サービスを手掛けたりできるようになる。

三井住友F&L子会社の

S M F L みたいパートナーズを含めた3社で協業に向けた覚書を交わした。具体策は今後詰める。衛星を二次利用する市場の創出に取り組む。2030年ごろをめどに第1号案件の組成をめざす。

アストロスケールは軌道上で衛星に燃料を補給し寿命を延ばす技術を開発している。打ち上げた衛星は燃料がなくなると運用を終えて宇宙ごみとなる。アストロスケールの技術を使えば、二次利用による衛星のリリースができるようになる可能性がある。

三井住友F&Lは航空機

やヘリコプターなどのリリースを手掛けていて、培ったノウハウは衛星でも生かせるとみる。実現には技術や需要、法律の面で課題もある。

許諾番号NK002074 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2026年02月25日 日本経済新聞 朝刊 007ページ © 日本経済新聞社 無断複製転載を禁止します。